

## 国際委員会(第25期・第5回)議事要旨

1. 日 時：令和3年3月18日(木) 10:00~12:00
2. 場 所：オンライン開催
3. 出席者：高村委員長、佐野委員、日比谷幹事、荒井委員、後藤幹事、沖委員、  
梶田委員、小池副委員長、三枝委員  
(事務局)：市川国際業務担当参事官、国際業務担当室員

### 議 題

- (1) 国際委員会議事要旨(案)(第5回)について  
委員長より資料の説明後、承認された。
- (2) 令和3年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針(案)について  
事務局より資料の説明後、承認された。
- (3) Future Earth Global Secretariat Hubへの応募について  
事務局より資料の説明後、承認された。
- (4) 国際会議の後援申請について  
「中緯度大気海洋相互作用についてのワークショップ後援申請」について、事務局より資料の説明後、承認された。
- (5) 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2021について  
委員長より、前回国際委員会の審議を踏まえ、25期を見通した全体テーマを「COVID-19後の持続可能な社会に向けた変革」とし、新型コロナウイルス後の持続可能な社会の在り方を探求すること、2021年度の会議テーマを、「ゼロ・エミッション(気候変動、カーボンニュートラル、ネットゼロ)」とすることが提案され、了承された。なお、委員からCOVID-19の影響という点、感染、死亡等、直接的な影響が多く語られるが、経済や弱者への影響、特に自殺の増加、働く世代への影響等、全体的なイメージが必ずしも科学に基づいて発信されておらず、これらに対し科学的なエビデンスに基づいたアプローチを行うことが重要であるという指摘があり、そうした観点を25期全体のテーマに織り込んで検討することが確認された。併せて、22年度、23年度のテーマについても、ISCやIAP等との連携を考えると、早く決める必要があること、特に、Gサイエンス学術会議を日学が主催する22年度は、Gサイエンス学術会議との関連性等

も考え、21年度中に十分な計画を立てる必要があることが確認された。

## (6) その他

### ①Gサイエンス学術会議 2021 共同声明案

委員長から、最終取りまとめ段階である共同声明案について概要を説明した。委員からは、今回の声明が具体の実行に踏み込んだものである点について、このような具体の提案は、ある程度タイムスパンをもって取り組まなければなかなかできないことであるとの指摘や、日本もハイレベルな提案を効果的に持続会議で打ち出し、実際の枠組を作るといった意気込みでいくとよいのではないかと、毎年開催する持続会議という枠組みと、7年に1度のGサイエンスという枠組みを効果的に使いながら政策化していくのがよいのではないかと等の意見があった。委員長からも、今回の英国王立協会の手法は学ぶところが多く、例えば、IAPで、気候変動と生物多様性というテーマを深掘するワーキンググループを立ち上げるといった国際学術団体の中での研究テーマの主流化や、自然資本へのインパクトを企業の会計に反映するアプローチの開発は英国政府の動きに協力し呼応したものであるという説明があり、持続会議も国際学術団体や各国アカデミー、政府とうまく連携できる可能性を検討するということが確認された。

### ②国際活動の強化

「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」の取りまとめ進捗状況について、委員長から報告があった。委員からは、国際活動の強化に関し、人材開発という点を活動の視野に入れ、若手科学者を国際会議に派遣し経験を積ませることが大切であるという意見が出された。具体的方策としては、これまでに事例のあったGサイエンス学術会議やIAPのワーキンググループ等への派遣の機会を活用すること、若手科学者の負担に対する配慮の工夫や追加的な対応については今後も検討することとされた。

以上